釜石市水産振興ビジョン概要版

前提条件

旧・釜石市水産振興ビジョン

↓

1) 基準年：平成 20 年（目標年：平成 25～30 年）
2) 目　標→※具体的数値目標なし
①魅力があり、将来に希望が持てる水産業
②安心・安全な食材を提供する水産業
③漁業者の働く意欲が沸く基盤（漁港）の機能が確保され、就労・生活環境が整う水産業

↓↑

3) 目標実現に向けた主要施策
①水産物の生産拡大
②流通加工体制の整備
③経営の近代化
④消費流通環境の整備
⑤漁場環境の整備
⑥河川の多面的活用

↓

※平成 23 年 3 月東日本大震災による釜石水産業をとりまく環境の激変

↓

新・釜石市水産振興ビジョン策定の必要性

1) 基準年：平成 29 年度（目標年：平成 39 年度）
※中間目標年：平成 34 年度（5 年後）
釜石市水産業は震災後、急激な変化の課程にあり、長期的に 10 年後を見据えつつ、以下の要因への早急な対応を考慮し、中間目標年を平成 34 年度とする。
①釜石市魚市場の体制の強化と水揚げの増大
②漁協経営基盤強化と漁業生産量の維持確保
③魚のまちづくり

2) 震災復興と釜石水産業をとりまく環境変化
①流通拠点釜石漁港の復旧
②衛生管理新魚市場、製氷・貯氷・給氷施設整備
③漁港背後の流通加工団地形成と事業者誘致
④3 漁協単位の浜活Ｐと広域浜活Ｐ策定
⑤3 漁協単位の地域再生営漁計画の策定
⑥釜石市水産業復興拠点グランドデザイン
⑦沿岸広域振興圏における漁業担い手確保・育成ガイドラインの策定（岩手県）
⑧釜石市観光振興ビジョン等
⑨岩手大学三陸水産研究センターの立地

↓

3) 目標：「魚のまち」かまいしの復活

～オール釜石水産業のスクラムによる魚市場の改革と漁協の生産力向上を通じた「魚のまちづくり」の推進～

新・水産振興ビジョン検討の柱

1．新生釜石魚市場の改革を契機とした流通加工改善
・新釜石市魚市場（衛生管理型）及び給氷施設、背後流通加工団地形成等集出荷拠点機能の拡充を踏まえ、
　・価格形成能力向上（市場背後への加工業者や仲買人の誘致・集約→買受能力向上）
　・地元漁獲物Ｕターン（地元船集荷拡大）
　・廻来船水揚げ誘致拡大等
・地場水産物を活用した加工構造への転換
・魚市場の公正で“開かれた魚市場”運営体制の構築

2．漁協の生産体制の再構築と所得向上
・漁業後継者はじめ釜石漁業の担い手確保
・経費節減と付加価値化による漁業所得の向上（単協・広域浜活プランの推進）
・漁協経営基盤の強化（定置＋α の多角的自営事業の摸索と実践）
・区画漁業権の有効活用による養殖再生再生
・適地における漁場造成と種苗放流・資源管理を組み合わせた基礎生産力向上
・新たな漁業・魚種の導入による組み合わせ漁業所得機会の拡充
・各漁漁協独自の市場外流通品の戦略流通体制（販路拡大、地場流通、観光交流活用、漁村特産型加工品の開発等）の推進
・生産基礎単位であり担い手居住の場である漁村復興・再生の加速
・低利用漁港等既存ストックの有効活用

↑↓

3．魚が感じられるまちづくりの推進
・観光立国基本計画が策定され、農泊（渚泊）等農山漁村創生のための観光振興施策が積極的に展開されている。
・釜石市魚市場地区を拠点とした魚・漁業を核とした集客拠点の形成と、各生産漁村の漁家民宿・民泊、漁業体験交流観光スポットの情報発信と連携による漁家の＋α の所得機会の創出が期待される。
・漁業・漁村と連携した釜石市観光振興ビジョンの確実な推進による地域振興
・市民・来訪者実感型の「魚のまち」づくり

主要な問題点・課題

1．新生釜石市魚市場の改革を契機とした流通加工改善
①ピーク時の 27%に落ち込む取扱金額
②周辺に競合市場近接（宮古、大船渡等）
③市場運営体制の改善と開かれた市場未形成
④一次加工機能の低下→廻来船誘致の難しさ
⑤市内の漁協等による定置網漁獲物中心の集荷構造
⑥市内立地水産加工業就業者不足
⑦市場情報（IT 等活用）の発信能力不足
⑧釜石ブランド魚種や加工品不足
⑨地産地消体制の未整備（魚食普及）

2．漁協の生産体制の再構築と所得向上
①漁業就業者の継続的減少と高齢化の進行→地域での生産維持のための担い手確保・育成
②地域再生営漁計画や各単協浜プラン及び広域浜プランの確実な実践による効果（経費節と漁業所得の向上）の発現→各単協単位及び単協共同の協議会活動の維持・継続
③自営定置の水揚低迷
④被災後減少した養殖生産体制の確立
⑤漁場整備と定着性魚介類種苗放流及び漁場管理体制再構築による基礎生産力向上
⑥新規漁業・新規魚種生産体制の確立
⑦各漁協独自の戦略的販売（地産池消を含めた販路拡大・釜石ブランド化戦略等）

↑↓

3．魚が感じられるまちづくりの推進
①新釜石市魚市場周辺の環境整備（魚のまちづくりと交流観光拠点の形成）
②漁港漁村の震災復旧と活性化
③各産地漁港漁村（漁協）における、体験交流観光、漁家民宿・民泊等の体制整備
④情報発信と多言語インバウンド対応
⑤ALL 水産関係者による食の観光振興
⑥釜石ブランド魚種や加工品の開発
⑦地産地消体制の構築（魚食普及）

水産基本計画と漁業・水産業をとりまく状況の変化

①　（内需の縮小と）世界的な水産物需要の拡大→水産業の競争力強化と輸出促進
②　水産資源の適切な管理要請→国内資源管理の高度化と国際的な資源管理の推進
③　国内における水産物生産体制の脆弱化→産業としての生産性向上と所得の向上
④　国民の「魚離れ」の進行→多様なニーズに対応する加工・流通施策の展開
※　観光立国推進基本計画・明日の日本を支える観光ビジョン・同ビジョン実現プログラム

↑

1)　浜の活力再生プランを軸とした漁業・漁村の活性化の促進に向けた浜活推進事業の創設
2)　漁業・漁村の活性化を支える取組
3)　東日本大震災からの復興
4)　漁村への来訪者増加（インバウンド観光含）に向けた渚泊の政策的推進

重点施策イメージ

1．釜石市魚市場の体質強化
(1) 釜石市魚市場の運営体制の改善
(2) 開かれた釜石市魚市場の形成（ＩＴ等活用した電子入札や情報受発信体制の確立）
(3) 市場価格の形成力向上
・廻来船誘致促進
・市内所属漁船の呼び戻しや仲買人の育成

2．地場水産物を活用した流通加工体制の強化

3．漁業の担い手確保・育成
・生活（所得、住宅、経営資金等）の確保や支援
・研修機会（短期、中長期研修制度）の創出
・都市部の漁業Ｉターンフェア等参加、情報発信
・後継者募集条件整理

4．漁業所得向上

5．震災後低迷傾向の養殖業の再生

6．種苗放流、資源管理の徹底による基礎生産力の強化

7．市場調査による新漁業・新魚種生産の可能性の検討

8．単協毎の独自の付加価値型販売戦略の展開

9．漁港・漁村復興

10．地産地消体制の推進

11．市内魚食普及活動の推進
・市民魚食普及講座、小中学生魚食講座他

12．水産と観光の連携による水産業の成長産業化
(1) 釜石市魚市場周辺の水産観光拠点と各漁港漁村単位の体験交流観光受け皿整備とネットワーク化（※渚泊事業への取り組み）
(2) 水産と観光の連携による観光交流情報受発信

担い手

- 釜石市漁連
- 仲買人
- 加工業者
- 流通業者
- 唐丹町漁協
- 唐丹町漁協青年部
- 唐丹町漁協女性部
- 釜石湾漁協
- 釜石湾漁協青年部
- 釜石湾漁協女性部
- 釜石東部漁協
- 釜石東部漁協青年部
- 釜石東部漁協女性部
- 漁協組合員
- 観光物産協会
- 商工会議所
- 岩手大学
- 釜石市
- 岩手県
- その他